



青森市子育て

サポートセンター



H26. 7. 10 発行 Vol.4

※青森市子育てサポートセンターでは、青森市内の小中学校で行われている家庭教育学級の運営サポート・子育て講座(学習機会)の企画運営・情報収集及び提供・子育て相談の対応等を行っています。



きらきら塾 7/1 『子どもの思春期と性教育』

講師：青森県立保健大学
教授 中村由美子さん

参加者の間でも由美子先生の講座を聞いているだけで、すっきりする！と根強い人気があります。



「なんて答えれば良いんだらう」とか、「答えを避けたいな」と思った経験はありませんか？

「なんて答えれば良いんだらう」とか、「答えを避けたいな」と思った経験はありませんか？
由美子先生のお話が印象的でした。

今回は、私たち青森市家庭教育サポートセンター連絡会のアドバイザーでもある中村由美子先生の思春期講座です。性教育とは「生教育」であり、人間として男あるいは女としてのあり方や人との関係の取り方、物事を自分で判断し、行動できる力(責任がともなうこと)を育てる教育とのお話がありました。

- ①子どもには、小さな時から「自分は大切な存在であり、愛され、気にかける存在であること」を伝え、自尊心を育てることが大事
- ②「相手や自分を大事にすることを学び、自己決定していく力を育む」
- ③生きる力をつけて欲しい

という3点がポイントでした。

どうしても、性に関して「答えにくい」というマイナスのイメージを持ってしまいがちですが、みなさんは子どもから、ちよつと困った性の質問をされた時や、説明を求められた時など、「なんて答えれば良いんだらう」とか、「答えを避けたいな」と思った経験はありませんか？

そんな時は、子どもからの質問を、決して無視せず、上から目線ではなく、これはいい機会だと思つて、一緒に図書館や書店に行つて参考となる本を調べたり、一緒に考えてみるのも良いというアドバイスをいただきました。

また日本人の民族性や青森県人の気質も影響して、自分の子どもに「愛している」「あなたは大切な存在だ」と伝えることが苦手な部分があります。でも、しっかり言葉にして伝えることが大事ということもわかりました。

思春期は、何も話してくれなくなる時期です。『これは今までの子育てがうまくいったということなのでガツポーズですよ。子どもが心配なのはわかりますが、子どもは少しずつ自分の世界を広げていくので、親は親同士でネットワークを作り、同じような悩みなどを共有・共感することも大切』というお話と『道を踏み外しそうな時は、毅然と一度きつちり子どもに話す(しつこく何度も言わない)ことも大事』という由美子先生のお話が印象的でした。



＊ 今後の講座案内 ＊

《きらきら塾》

- ★『親子のコミュニケーションや関わり方を学ぶ①～⑤』10:00～12:00
- ①8/29(金)⇒あおもり親楽プログラム(乳幼児編)
- ②9/8(月)⇒親業訓練のコミュニケーション
- ③10/10(金)⇒あおもり親楽プログラム(小中学生編)
- ④11/6(木)⇒STEP式子育て
- ⑤11/28(金)⇒みんなで話そう、親のあり方
- ※5回シリーズですが、1回のみ参加もOK
- ★12/5(金)10:00～12:30『自分らしく生きる』
- 講師：青森保健大学前教授 佐藤恵子さん

《うとう塾》

- ★9/5(金) 10:00～12:00
- 『通級指導教室ってなあに?』
- ～LD・ADHDのある子たちのために～
- 講師：青森市浪打小学校通級指導教室 教諭 須藤 涼子さん
- ★11/14(金) 10:00～12:00
- 『地域とともに生きる!未来に向かって!!』
- ～先輩ママたちとおしゃべりタイム～
- 講師：青森LD親の会「こんぺいとう」 会員のみなさん

詳細は、開催日間近の広報あおもりをご覧ください。サポートセンターにお問合せ下さい。

鳴海先生の子育てQ&A



児童心理治療施設「青森おおぞら学園」
施設長 鳴海明敏さん

「チャイルドラインあおもり」で子どもの声を電話で受ける活動もされる鳴海さんは、とてもわかりやすく私たちの疑問や質問に寄り添ってくださいます。

Q 小学校2年の娘に、いつも仲良しのA子がいます。休み時間にB子に遊びに誘われ「A子さんもいい？」と聞くと「ダメ！」と言われ、娘だけが連れて行かれます。本当はAさんと遊びたいし、一人ぼっちになってしまうA子さんのことも気になるのですが、強い子の前では何も言えなくなっているようです。こんな時、親としてどう話したら良いでしょうか？



さて、皆さんの対応はどんな対応になるでしょうか。いずれにしても、子どもたちは子どもたち自身の力で、いろいろあつちこつちになぶつかりながら成長していくんだと思います。お母さんとしてはその力を信じて、少し離れて見守ってあげることが出来ればいんだらうなあと私は思っています。いかがでしょうか？

A 娘さんは、A子さんB子さんとのことをお母さんに相談できるのですね。娘さんが友達とのことを、お母さんに相談できるということ、そのことが素晴らしいことだと思います。さてこの場合親として、どんな対応が可能でしょうか。四つの対応のパターンをあげてみました。皆さんの場合は、どんな対応になるでしょうか？

- ① 状況や娘さんの気持ちをよく聞いて、娘さんがどうふるまったらいいか（親身になって）具体的にアドバイスする。
- ② 娘さんと友達とのことなので、状況を聞くことももしないし娘さんの気持ちも聞くこともしない。（勝手にしなさいということ）
- ③ A子さんのことも気になるし、B子さんには逆らえないと、二人の友達との間で板挟みの状況に置かれている娘さんの状況や気持ち（ゆつくり）聞いてあげられるけど、アドバイスはしない。
- ④ 娘さんの気持ちも置かれてある状況も聞かないで、いつもの決まり文句のアドバイスをする。

「娘さんの話を聞くこと」と「お母さんがアドバイスすること」を組み合わせ、四つのパターンにしてみました。

①の対応をしようとする方は、かなり多いのかなあと 생각합니다。自分のこれまでの経験や知識を総動員して、我が子のためになんとかしたいと思うのは、もつともな親心だと思います。でも、この方法が成果を上げるのはなかなか困難なんです。それは、A子さんやB子さんの動きを予想するのがとっても難しいのと、娘さんとお母さんは別人だからです。あなたがするようには娘さんは行動できないからです。お母さんにとっては正解だとしても、娘さんにとっては正解だとはならないことも多いのです。だから、アドバイスとしては正解かもしれないけども、結果的に、お母さんの言う通りやってみただけ上手いかなかった、ということになりかねません。

②の対応は、娘さんの自主性を育てるという点では、いい方法かも知れませんが、小学校2年生という年齢では、ちよつと突き離し過ぎかも知れませんか。せつかく相談したのに、お母さんはちゃんと話を聞いてくれないと、娘さんが不満に思うかもしれません。

③の対応は、ゆつくり話を聞いているうちに、娘さんの中にヒントが浮かんでくることが多いです。あとは、失敗してもまた一緒に考えてあげるから、やってごらんと背中を押してあげればいいのです。

④の対応は一番楽です。何が起きても、「あなたは私の娘だから、大丈夫。きつとうまくいくよ。」といういつものアドバイスを切り抜けるのです。

うとう塾 5/16『発達障がいってなあに?』 6/17『気になる子どもと家族』

講師：青森県発達障害者支援センター『ステップ』

臨床発達心理士 町田 徳子さん
主任支援員 工藤 摩世さん



発達に心配のある子ども達の様々な問題を解決するために、まずは発達障がいを理解してそれぞれの時期に必要な関わり方を知りたい。そして家族のために親ができることを学び、より良い未来へとつなげていきたい。ということから、二回に渡ってお話をさせていただきました。

一回目では、実際に障がいをもつ方のDVDを見せていただき、障がいによって本人が、どう感じてどう困っているのかを知ることができ、よく理解することができました。発達障がいは、**子どもの年齢や生活環境、保護者の育て方、家庭のしつけなどが原因ではありません。**脳の情報処理によりもたらされる障がい、脳の働き方が違う事で発達にアンバランスが生じるものです。ついでできないことに目を向けがちですが、できることや得意なことを見つけて、その子に合った学びの方法を見つけられるように、苦手を補っていけると良いですね。

二回目では、講師の方のお話のあとに、参加者同士で「ほめあう」という体験をし、打ち解けた感じで二つのグループに分かれて話し合いをしました。参加されている方の困っていることや気持ちも直接聞ける良い機会となりました。

どちらの講座でもわかったことは、子どもたちの困った行動には必ず理由があり、目に見える行動は同じでも、理由は一人ひとり違うということをお話しされていました。誰かが落ち込んでいたとしても、皆が同じ理由なわけではないです。困っている理由は相手の持っている性格・気質・特性で違ってくるものです。そんな時、理解されずにただ大丈夫と言われても、私たちでも悩みの解決には繋がりません。

そこで良いヒントになったのが、どの世代の相手でも正確に伝わりやすい**目からの情報**についてです。**見てわかり易い配慮は、効果的**だと思います。また、**ほめる事も効果的!!**です。ほめることは、コツが要り正直難しいですね。でも、自分もほめられるとやる気が出ます。**子どもも、行動をほめられると自分の行動に自信が持て、人に認められることで自分が好きになります。**

ぜひ、気になるお子さんだけでなく、**パートナーや家族全員に対して、ほめることを心がけてみてください。**

青森市子育てサポートセンター

青森市子育てサポートセンター運営は、私たち家庭教育サポーター連絡会が、青森市教育委員会から家庭教育支援事業を受託し「青森市内で子育てをしている保護者のみなさんのお役に立ちたい!」という熱い思いで、活動に取り組んでいます。

TEL・FAX 017-774-6537 〒030-0813 青森市松原1丁目6-3 サンピア(勤労青少年ホーム)2F

Eメール aomorishi-saposen@arion.ocn.ne.jp ブログ aomorishi-saposen.blog.ocn.ne.jp

【開設日時】 毎週火曜日 10:00~13:00 7月中旬までは木曜日も開設 13:00~16:00

